

第2回住民ワークショップ結果について

第2回目は、公共施設再配置事務局案に対する意見提言とともに、各小学校校舎内への機能配置を具体的に検討することにより、小学校の地域拠点化に向けた現実的な取組に対する意識啓発を目的に開催しました。

1. これまでの開催経緯

日時	開催テーマ	討議内容
第1回 5月13日 (日) 10~12時	<ul style="list-style-type: none"> 小学校空き教室を活用した複合化について <p>※ワールドカフェ形式</p>	<p>○小学校の空き教室を活用して複合化した場合の効果・問題点をテーマごとに話し合う。</p> <p>＜5つのテーマ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 学童保育所・保育園 校区コミュニティ拠点（事務局含む）・中央公民館機能（ホールは除く） 老人福祉センター 子ども療育センター・障がい者共同作業所 民間等への有料賃貸
第2回 9月2日 (日) 10~12時	<p>＜作業1＞再配置の方向事務局案について</p> <p>＜作業2＞小学校の空き教室を活用した機能配置について</p>	<p>＜作業1＞</p> <p>○施設全体の再配置の考え方を示す事務局案に対する意見を出し合う。</p> <p>＜作業2＞</p> <p>○事務局原案を事前に作成。</p> <p>○5小学校ごとのテーブルに分かれ、40年後想定される空き教室を対象に、導入施設がどこにあったらよいか、空間配置の原案を元に話し合う。</p> <p>＜導入施設＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 学童保育所 老人福祉センター 校区コミュニティ拠点（事務局含む）

【当日成果例 B班】



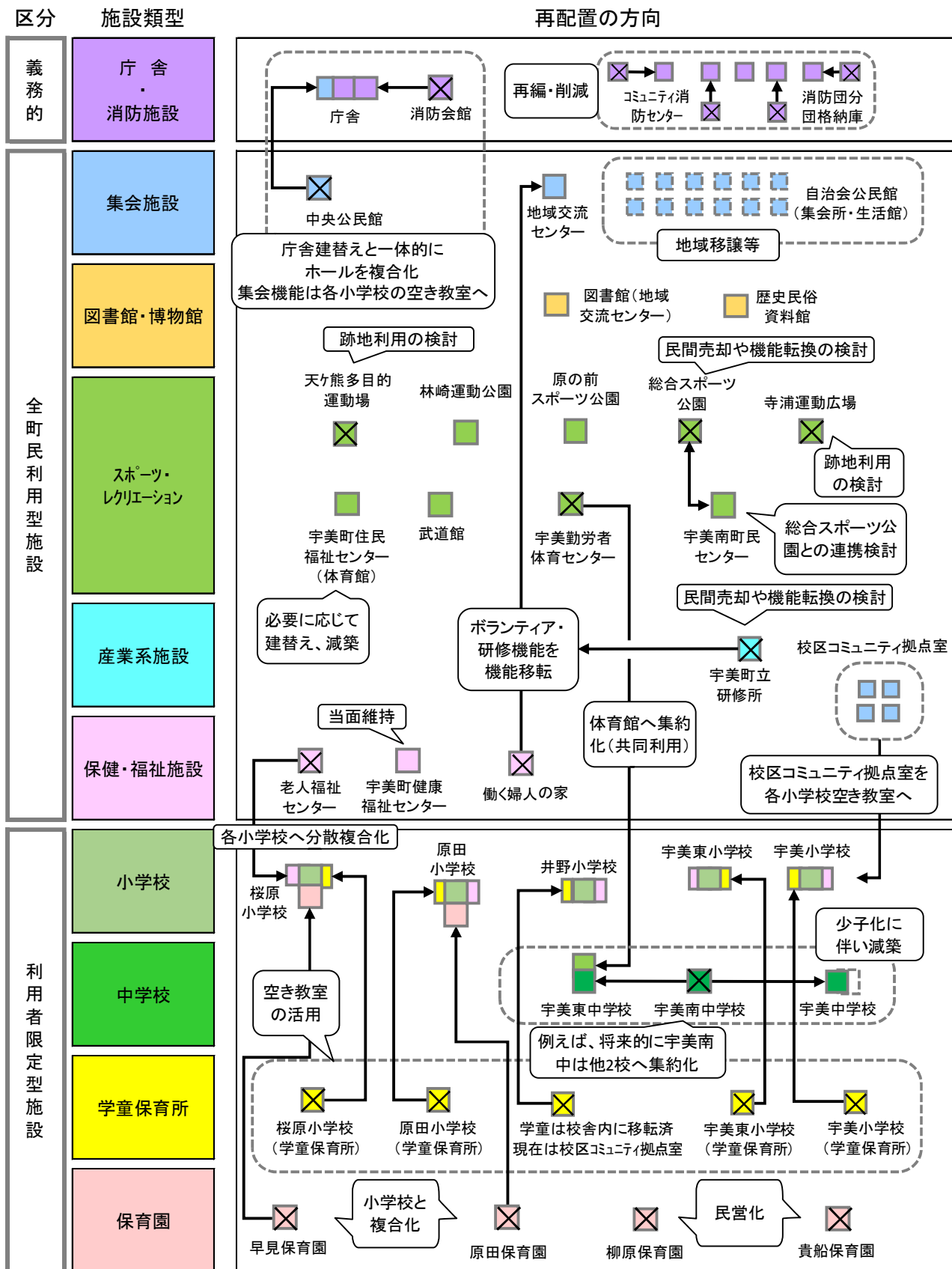
▲＜作業1＞



▲＜作業2＞

2. 当日資料

<作業1>【再配置の方向(第2回住民ワークショップ)原案】



※本資料は公共施設の再配置を検討する上で方向性を整理した原案であり、必ずしもこのとおりに施設の再編を行うものではありません。

3. 参加者意見と回答

<作業1> 公共施設再配置計画たたき案について

(⇒事務局回答)

	再配置についての意見	その他の意見(現況、疑問)
全 体	<p>・ 40年後の労働力維持、外国人労働力の活用を考える。(国際交流センター、国際研修センターの機能が必要)</p> <p>⇒施設の再配置を進めるためには、機能の集約が必須となります。そのため、事業によっては、事業内容の見直しが必要な場合があります。見直しを行うにあたっては、宇美町が重点的に行う必要があるものを検討しながら実施していきます。</p>	<p>・ 語ろう会にて、議員さんでさえ「お金がない」という理由で話を一蹴してしまう。</p> <p>・ 町として頑張ろうという意識が低いのではないか。</p> <p>⇒現存する施設全てを安全な状態で維持していくための財源確保が非常に困難であることが、H28年度策定の公共施設等総合管理計画や策定中の本計画で明らかになってきているところです。宇美町の規模に合わせた施設の再配置を推し進めるとともに、更なる行政改革を進めていきます。</p> <p>・ 人は少ないのに自治会数48と多い。</p> <p>⇒人口減少と少子高齢化を踏まえれば、将来、統合されていく流れになると考えます。策定中の本計画では、各小学校を自治会や校区コミュニティの拠点として活用する検討をしています。</p>
庁舎・消防施設	<p>・ 庁舎は可能な限り複合化した方が良い。</p> <p>⇒庁舎は、宇美町のシンボリックな存在にしてほしいという希望を住民の方から伺うところです。事務局としても、維持管理費の観点からも、できるだけ複合化した方がよいという考えです。そのことを踏まえ、他の施設の更新時期、機能的役割を検討しながら本計画を策定していきます。</p>	<p>・ 消防団は重要。</p> <p>⇒上記の自治会と同様、消防団も将来的には再編されていくものと考えます。施設の集約については、消防団の編成の状況により再編されるものとなります。</p>
図書館・博物館	<p>・ 歴史民俗資料館と宇美八幡宮の連携が薄い。図書館(地域交流センター)と統合したほうがすぐに調べ物ができて良いのでは。</p> <p>⇒現位置は宇美八幡宮の横にあり、町外来訪者に対応しやすい場所となっています。</p> <p>資料館については、運営方法などソフト面での工夫が重要と考えており、所管課で検討しているところです。</p> <p>ハード面では、宇美町の歴史的に重要な資料を保管する機能を備えていなければなりません。複合化の実効性、立地条件などから、本計画の40年間では施設の統廃合は検討していない状況です。</p>	—

	再配置についての意見	その他の意見(現況、疑問)
スポーツ・レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設が多すぎるのではないか。 <p>⇒町内の運動広場、屋内運動施設などについては、利用状況、住民意向等を踏まえ、できるだけ集約する方向で検討をしているところです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・寺浦運動公園では月に一度、グランドゴルフ、ソフトボールで利用している。 ・以前、総合スポーツ公園では記録会、駅伝、町民夏祭りが行われていたが、維持できずイベントは廃止になった。 <p>⇒運動施設は、定期的に利用されている方と利用されていない方で大きく意見が異なります。住民アンケートでも、施設を存続するならば、利用料負担を増やすべきだという意見が多くありました。利用料については別の機会に検討する必要がありますが、本計画では利用料は現状のままと想定し、宇美町の規模に合わせて施設を再編し、維持管理が可能な状況になるよう想定しています。</p>
保健・福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・働く婦人の家は検討を早急に行い、跡地には複合化施設を確保。 ・働く婦人の家は料理教室があるのでそのままが良い。 ・老人福祉センターの風呂は独居老人が利用しているため必要。 <p>⇒老人福祉センターについては、老朽化により、大規模改修ではなく、建替えが必要な施設です。一方で、働く婦人の家については、耐用年数からすると大規模改修が必要な時期が到来しています。本計画では、建替えや大規模改修を行うのではなく、機能を移転して他の施設に複合化していく予定です。また、老人福祉センターの浴場については利用者が限定されており、公的運営ではなく、民間等を利用していくものと解しています。</p>	—
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・空き教室に健康器具を持ち寄り運動する。(憩いの場にする) ・敷地内に空き地があれば畑をつくりたい(世代間交流) ・小学校の中心に拠点施設があれば良い。 <p>⇒小学校5校については、地域拠点施設としての機能を持たせ存続する予定で計画しています。校区コミュニティ、高齢者の憩いの場、子育て支援などの役割を各小学校に置き、災害時の避難場所にも活用できるように計画しているところです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校にコミュニティ拠点がある例は少なく、セキュリティ等考えて別施設のほうが良いのではないか。 ・小学校の構造上無理がある。 ・エレベーターの増設が必要になる場合もある。 <p>⇒学校の複合化については、文部科学省も先進事例の紹介を行っており、これまで数多くの自治体が実施しています。資金面についても、国の補助制度も活用することも可能です。空き教室に他の公共機能を入れて複合化する流れは、全国的に施設の長寿命化を図る中、進んでいくと思われます。</p>

	再配置についての意見	その他の意見(現況、疑問)
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・南中は潰さず複合化する。 ・集約した後、旧南中校舎に独居老人用住宅にしてはどうか。 ・集約後は、旧南中校舎に合宿機能を導入。たとえば、観光資源の活性化として宇美八幡観光客向け宿泊施設など。 <p>⇒学校の方針は、施設の維持管理、財政の観点からの検討している本計画を策定後、教育的観点からの検討が必要となります。また本計画については、5～10年おきに見直しを行っていくため、教育的観点からなる将来的な学校方針を受け、学校施設の用途についても再度検討を行うこととなります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活をやりたくて宇美東中の校区から宇美南中へ通う事例もある。 ・学校ごとに部活動がないと大会等に出場できないのではないか。 ・集約後の通学はバス利用？ <p>⇒本計画については今後40年間の町が保有する主要施設の改修・廃止・更新時期を明らかにするものです。左の欄で述べたように、教育的観点からの方針に関わることとなりますので、本計画策定後に検討いくこととなります。</p>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、保育園は管轄が違うため複合化には反対。 <p>⇒学校の複合化については、先程も述べたとおり、全国的な流れになっています。全く管轄が違う機能についても例外ではありません。文部科学省が公表している学校の複合化の事例としては、保育園の他にも行政機関の窓口、公民館、老人福祉施設、大ホールなど多岐に渡ります。</p>	—

<作業2> 小学校空き教室を利用した配置について

項 目		意見
校 舎	配 置	<ul style="list-style-type: none"> ○不登校児童クラス、老人福祉機能は1Fが望ましい ○普通教室、特別支援学級は1校舎棟にまとめる／1Fは地域の機能を集め、まなびやの機能（町立研修所）、地域拠点ルームをもってくる／1Fは保育園にする ○EVはあるが、特別支援学級を高い場所に設置する場合、避難は大丈夫なのか ○外から入れるようEV設置し、地域拠点ルームを4Fに集約する ○運動場にも近く、身体の負担も考え、1Fは外部者専用にする（地域・お年寄り・保育園児） ○昇降口等で出入口を別にするのは難しいので2Fを職員室にすると、生徒は登校時職員室近くを通過しなければならないため良い ○3階4階が教室だと、1階の保健室や職員室は遠いのではないか
	機 能	<ul style="list-style-type: none"> ○余った教室は民間賃貸（貸会議室）にする。例：学習塾／子どもの遊びスペースにする ○学童保育にする ○民営塾があるとよい
	設 備	<ul style="list-style-type: none"> ○肢体不自由児には2階以上だとEVが必要（エレベーター設置）／EVがあれば利用しやすい ○一般利用者用の出入口をつくる／地域住民の出入りがあることで、子ども達のあいさつの練習にもなる。顔見知りとなり、地域の輪が広がる（ふれあい、声かけ運動） ○バリアフリー化 ○避難所としての設備強化（エアコンなどの空調、床をマットに変更するなど） ○校舎はセキュリティ上区切る／昇降口の出入口チェックがあれば安全／通行可能時間をずらし使用する防犯扉
校舎以外		<ul style="list-style-type: none"> ○裏庭や中庭の一部を畑にし、お年寄りに活用してもらおう ○1校に1つのプールは不要（集約化） ○駐車場の拡充／地域拠点ルームの駐車場を確保／保育園跡地を駐車場にする／裏門横に駐車場を増やす
その他		<ul style="list-style-type: none"> ○小中一貫がよい（小保複合化は反対）／保育園は車送迎が前提のため、離れた場所になっても構わない ○複合化後、インフルエンザ等が流行した時、対処はどうか？ ○将来、年老いた自分たちが使いたいと思うのかどうか？ ○昔遊びのイベント等があれば人が集まる ○お年寄りは歩いては来ないので送迎が必要。／学童の広さは空き教室で足りるのか？

A班 宇美小学校 平成30年度配置図

<空き教室への複合化を検討する施設>
 学童保育所、老人福祉センター、校区コミュニティ拠点

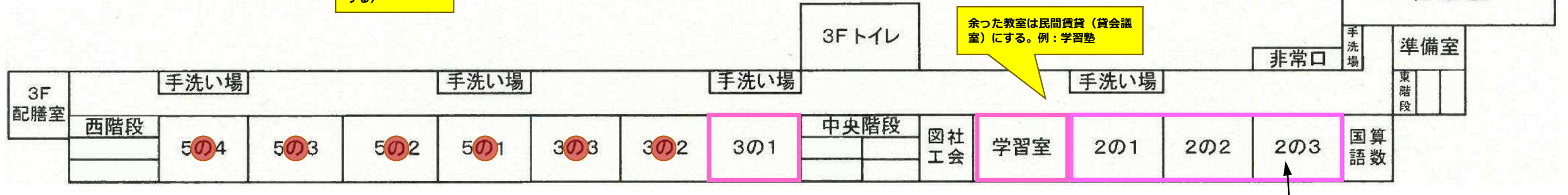
当日の提案
意見

- 2058年(40年後)に必要な普通教室数 12
- 2058年(40年後)に必要な特別支援学級 3

		2018年 (現在)	2028年 (10年後)	2058年 (40年後)
必要な教室数	普	21	16	12
	特	4	2	3
空き教室数	普	1	6	10
	特	0	2	1
	計	1	8	11

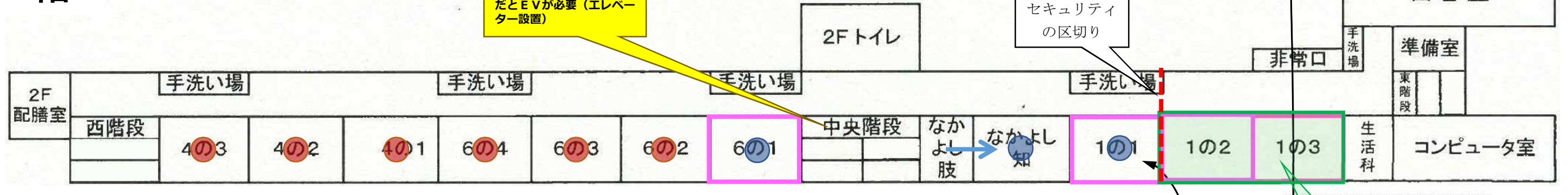
3階

1校に1つのプールは不要(集約化する)



2階

肢体不自由児には2階以上だとEVが必要(エレベーター設置)

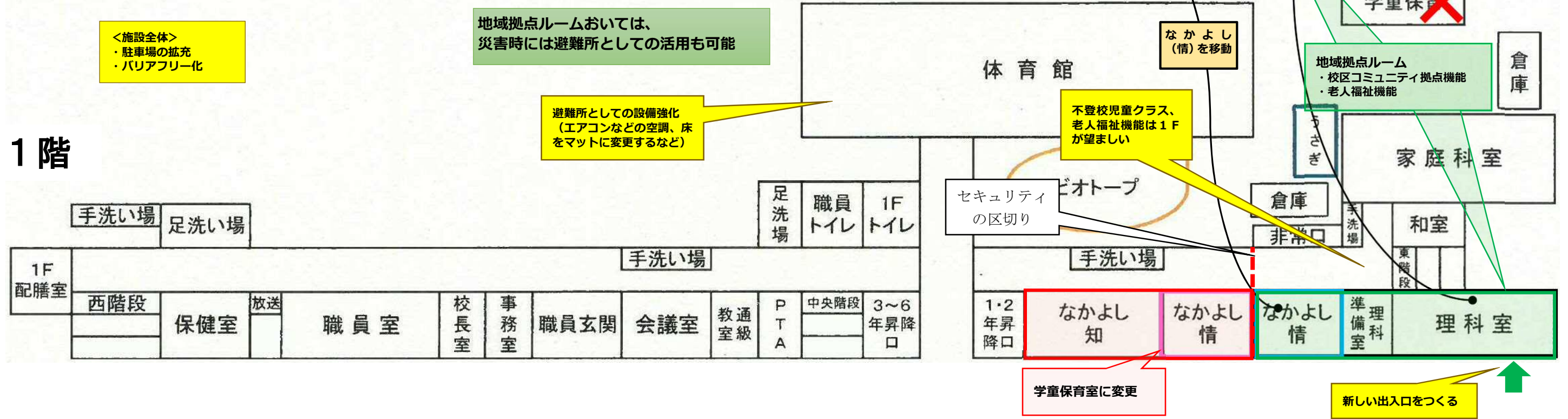


1階

<施設全体>
 ・駐車場の拡充
 ・バリアフリー化

地域拠点ルームにおいては、災害時には避難所としての活用も可能

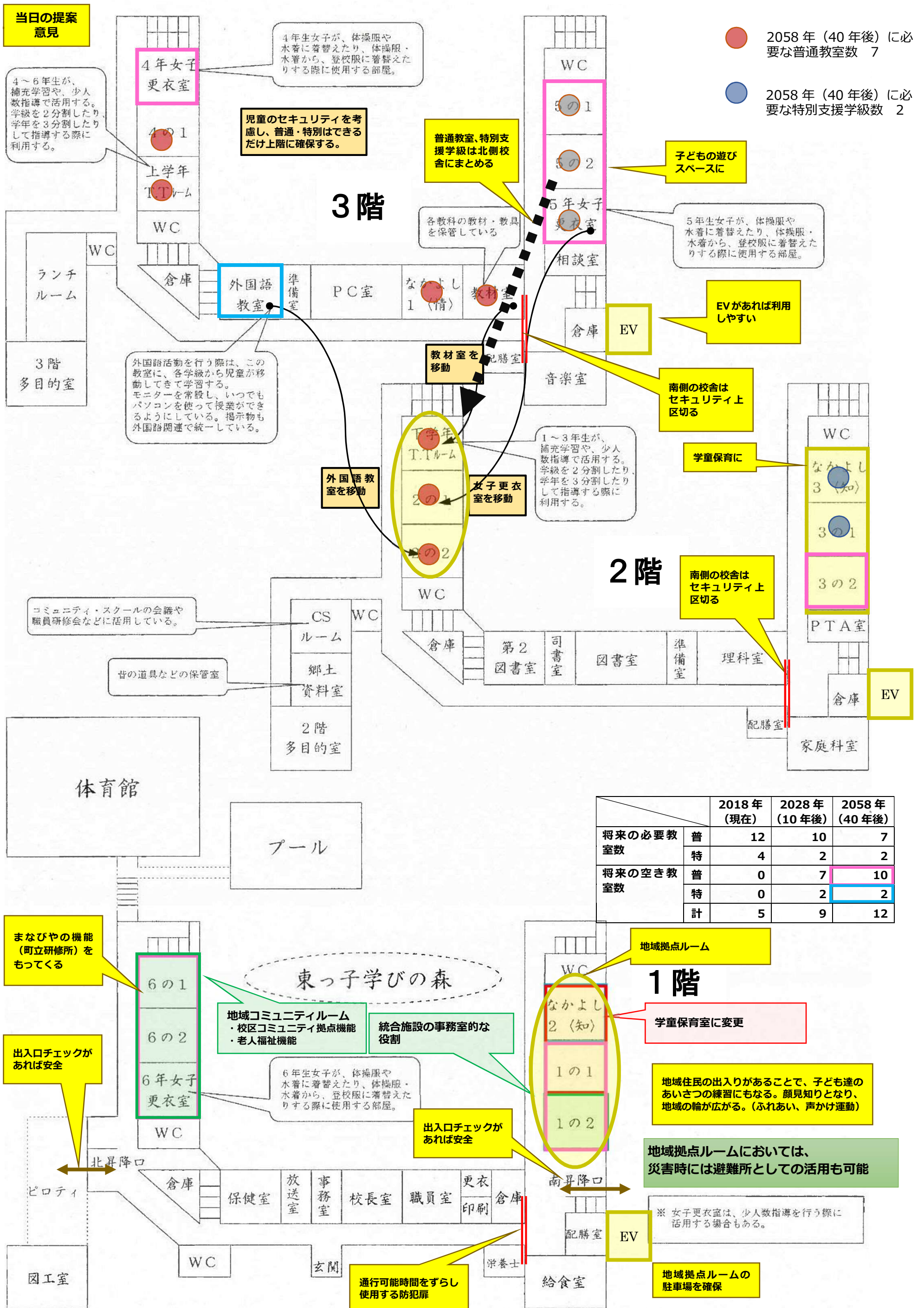
避難所としての設備強化(エアコンなどの空調、床をマットに変更するなど)



B班 宇美東小学校 平成30年度配置図

<空き教室への複合化を検討する施設>

老人福祉センター、学童保育所、校区コミュニティ拠点



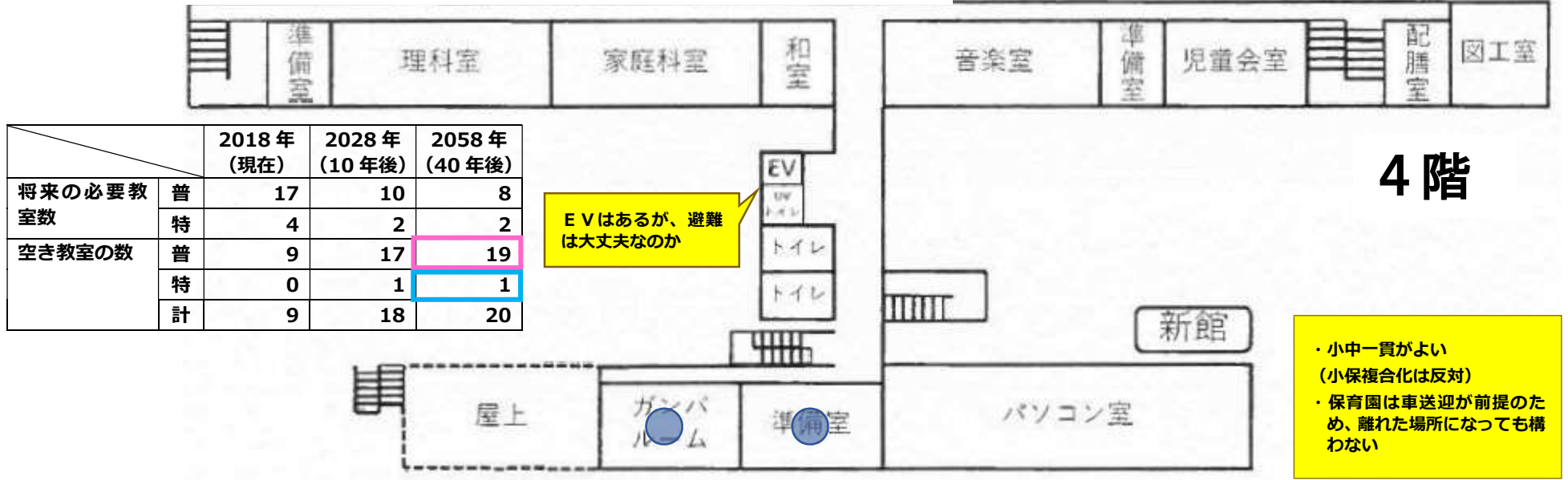
		2018年 (現在)	2028年 (10年後)	2058年 (40年後)
将来の必要教室数	普	12	10	7
	特	4	2	2
将来の空き教室数	普	0	7	10
	特	0	2	2
計		5	9	12

C班 原田小学校 平成 30 年度配置図

<空き教室への複合化を検討する施設>

原田保育園、老人福祉センター、学童保育所、校区コミュニティ拠点

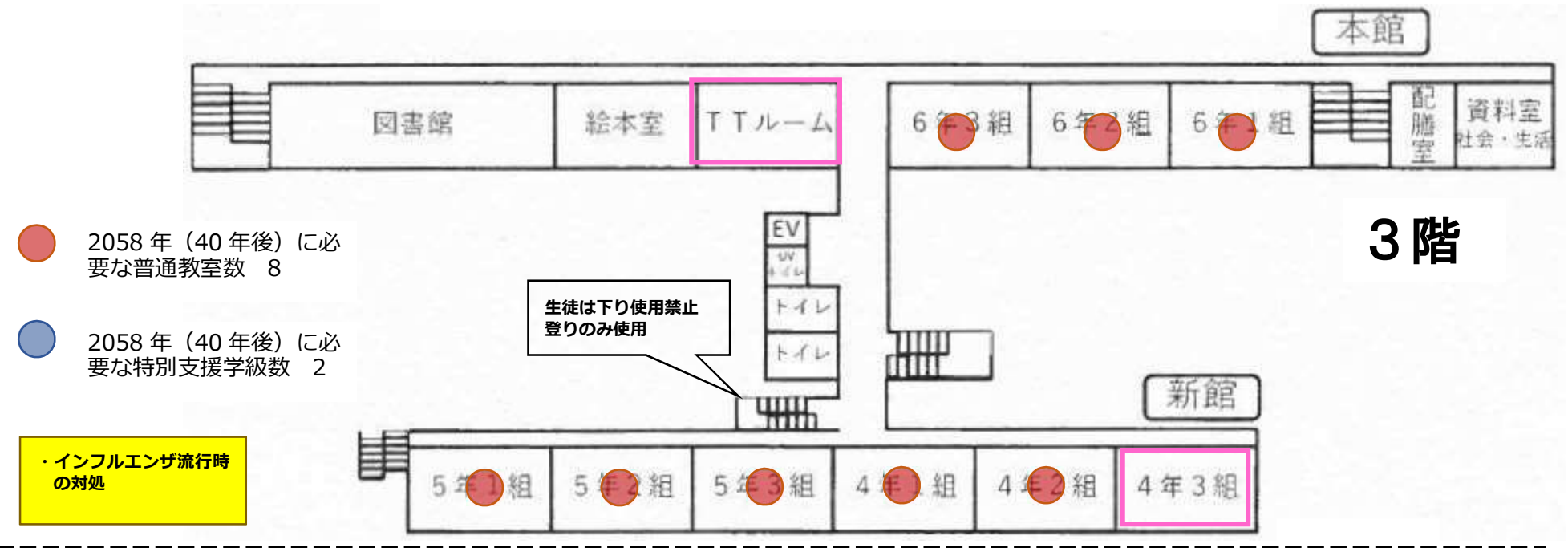
当日の提案
意見



		2018年 (現在)	2028年 (10年後)	2058年 (40年後)
将来の必要教室数	普	17	10	8
	特	4	2	2
空き教室の数	普	9	17	19
	特	0	1	1
	計	9	18	20

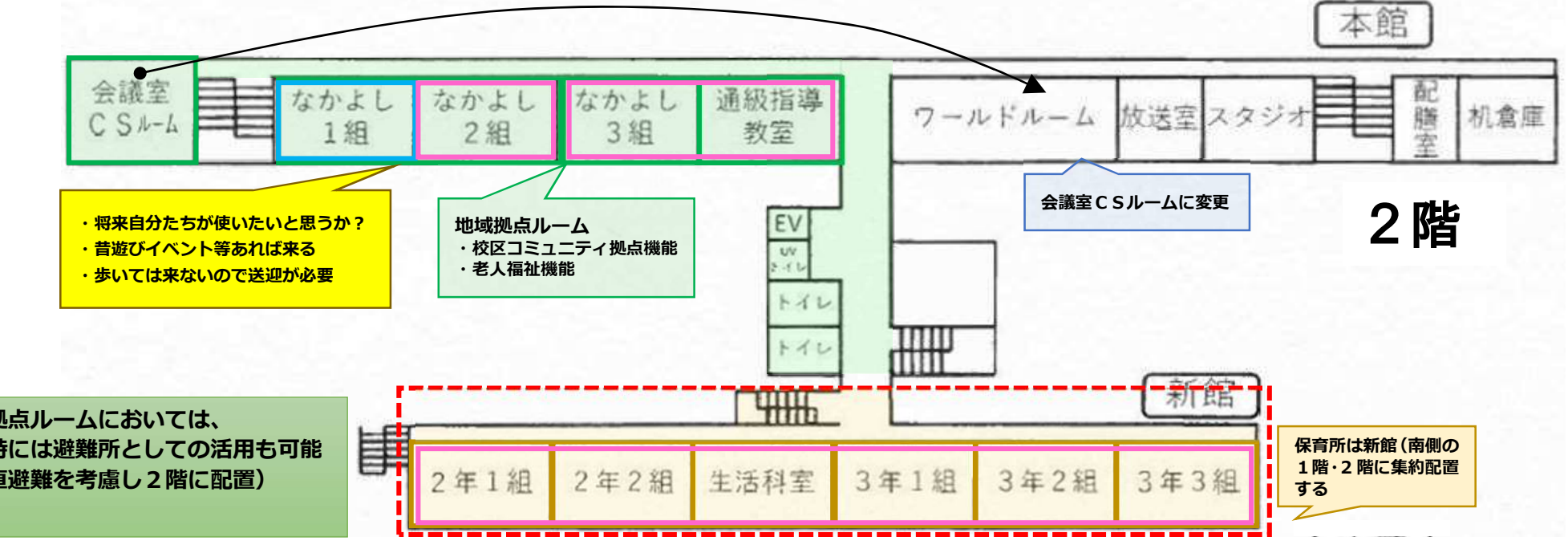
EVはあるが、避難は大丈夫なのか

・小中一貫がよい
(小保複合化は反対)
・保育園は車送迎が前提のため、離れた場所になっても構わない



- 2058年(40年後)に必要な普通教室数 8
- 2058年(40年後)に必要な特別支援学級数 2

・インフルエンザ流行時の対処

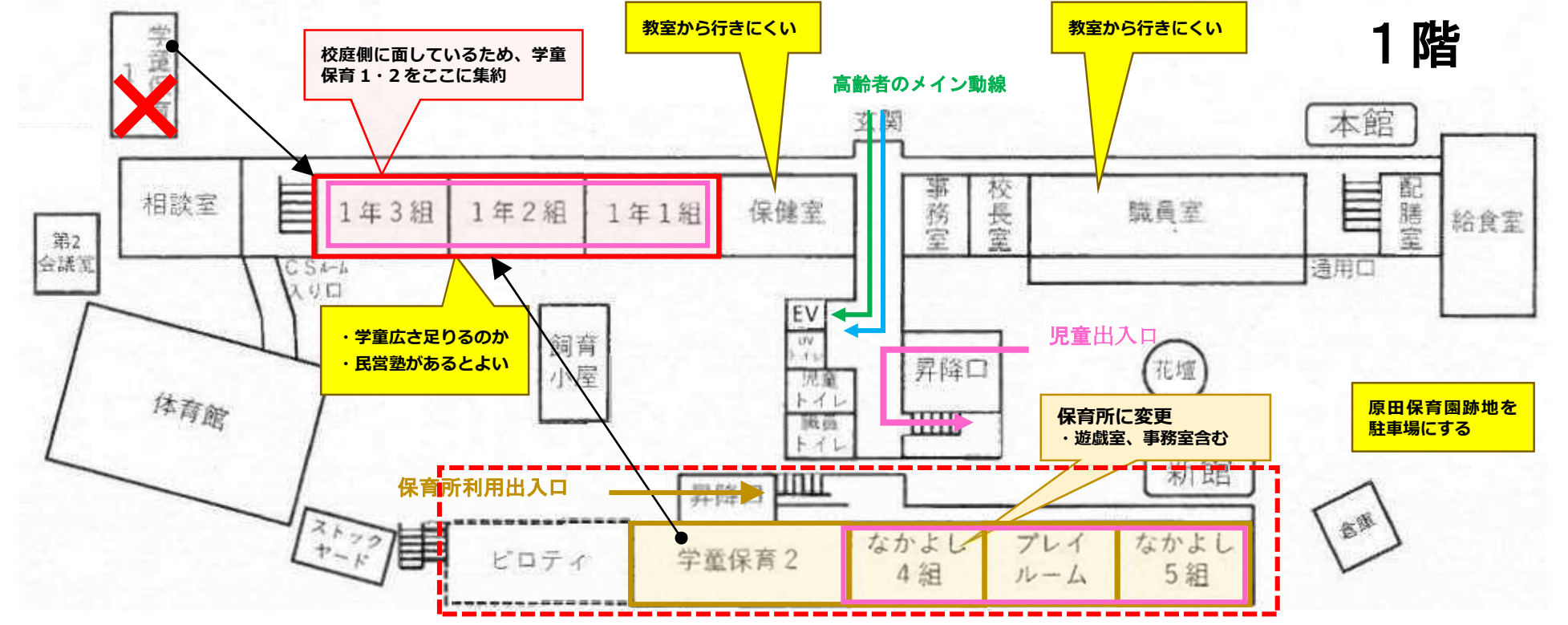


・将来自分たちが使いたいと思うか?
・昔遊びイベント等あれば来る
・歩いては来ないので送迎が必要

地域拠点ルーム
・校区コミュニティ拠点機能
・老人福祉機能

地域拠点ルームにおいては、災害時には避難所としての活用も可能(垂直避難を考慮し2階に配置)

保育所は新館(南側の1階・2階)に集約配置する



校庭側に面しているため、学童保育1・2をここに集約

教室から行きにくい

教室から行きにくい

高齢者のメイン動線

・学童広さ足りるのか
・民営塾があるとよい

保育所に変更
・遊戯室、事務室含む

D班 桜原小学校 平成 30 年度配置

<空き教室への複合化を検討する施設>

早見保育園、学童保育所、老人福祉センター、校区コミュニティ拠点

● 2058年(40年後)に必要な普通教室数 10

● 2058年(40年後)に必要な特別支援学級数 2

4階



3階

当日の提案
意見

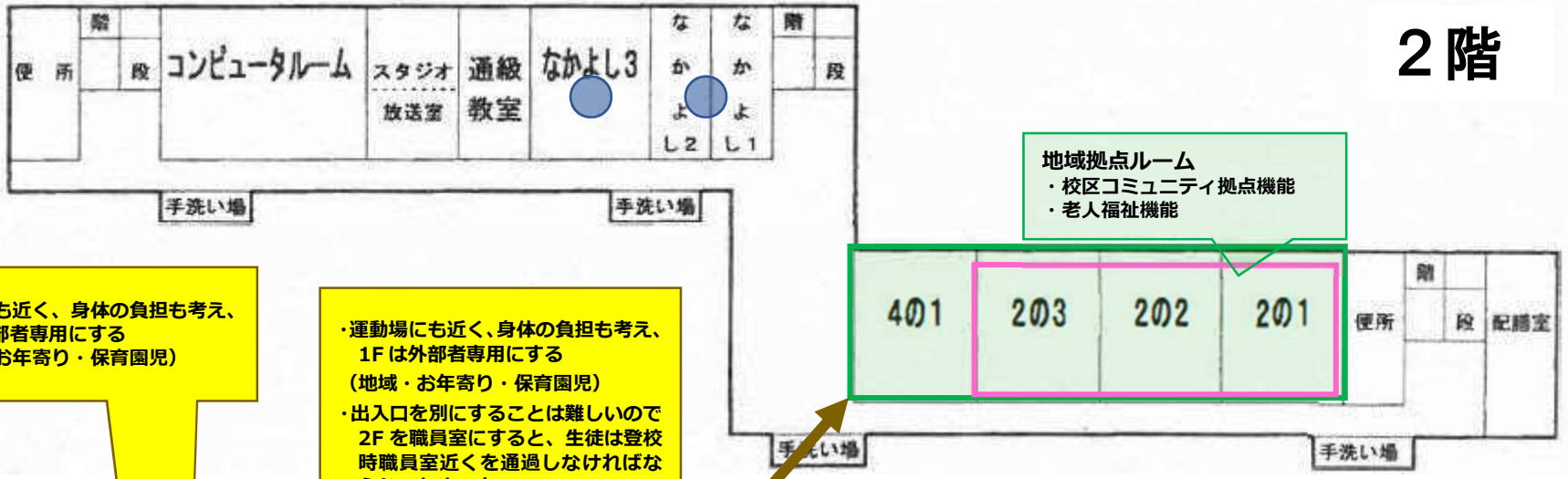


2階

運動場にも近く、身体の負担も考え、1Fは外部者専用にする(地域・お年寄り・保育園児)

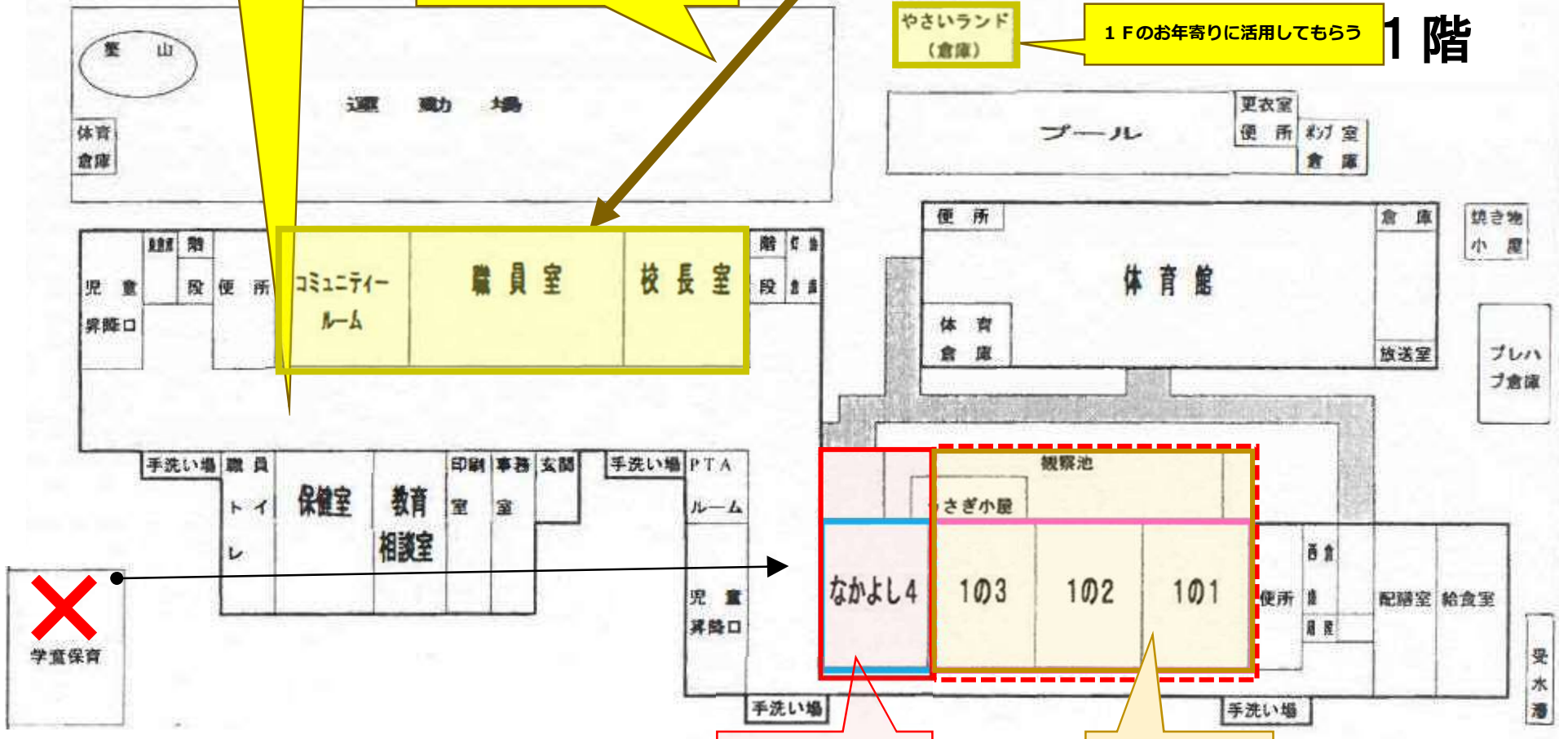
・運動場にも近く、身体の負担も考え、1Fは外部者専用にする(地域・お年寄り・保育園児)
・出入口を別にすることは難しいので2Fを職員室にすると、生徒は登校時職員室近くを通過しなければならないため、よい

地域拠点ルーム
・校区コミュニティ拠点機能
・老人福祉機能



1階

やさいランド(倉庫) 1Fのお年寄りに活用してもらおう



✗ 学童保育

地域拠点ルームにおいては、災害時には避難所としての活用も可能

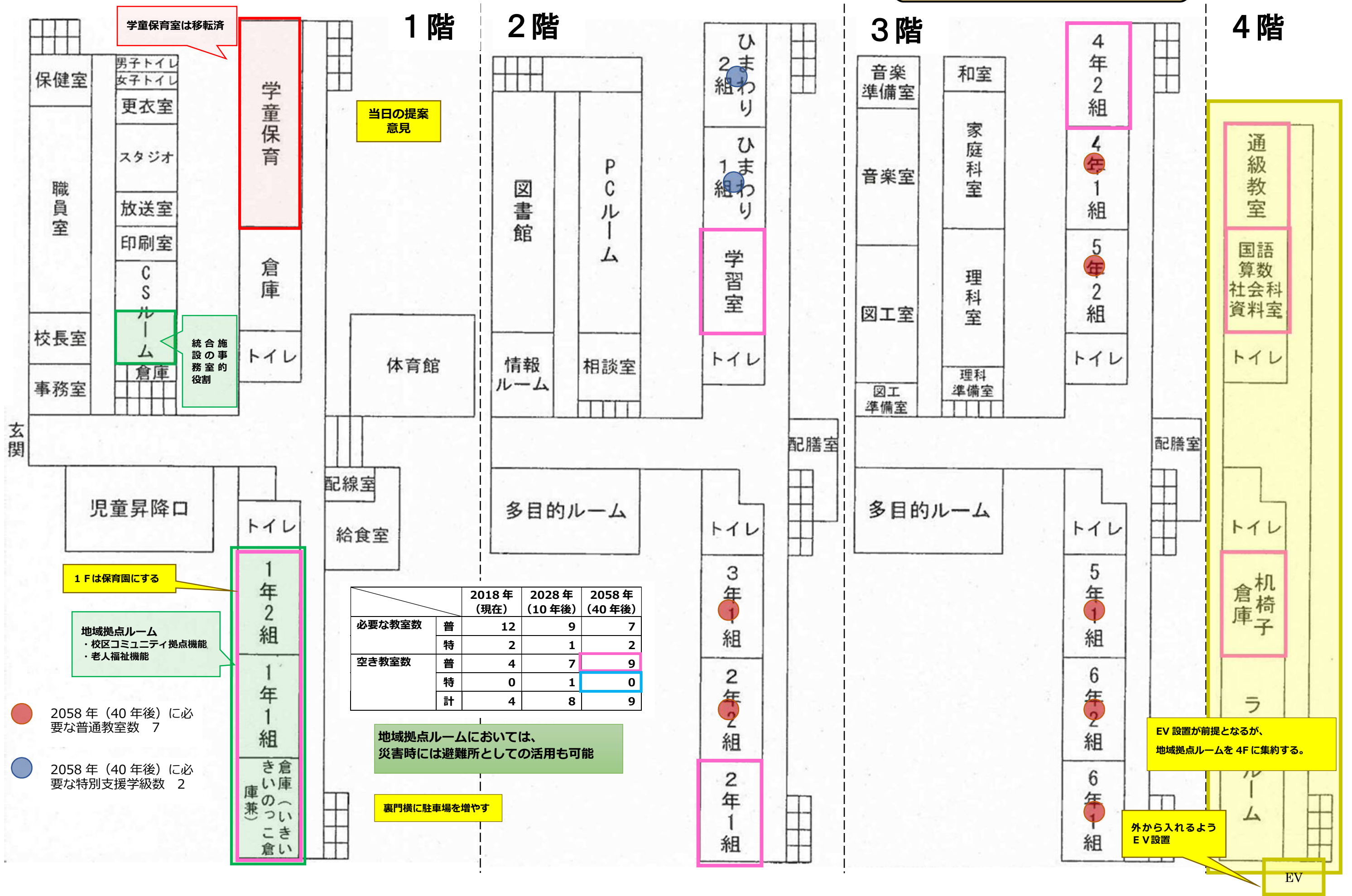
増築含め学童保育に変更

中庭を含め、一部増築により保育所諸室を確保

E班 井野小学校 平成30年度配置

<空き教室への複合化を検討する施設>
老人福祉センター、校区コミュニティ拠点

井野小では、空き教室になった普通教室が「通級教室」「学習室」「資料室」「倉庫」「ランチルーム」などに活用されている。



1階
当日の提案
意見

2階

3階

4階

学童保育室は移転済

統合的
施設
事務室
役割

1Fは保育園にする

地域拠点ルーム
・校区コミュニティ拠点機能
・老人福祉機能

- 2058年(40年後)に必要な普通教室数 7
- 2058年(40年後)に必要な特別支援学級数 2

		2018年 (現在)	2028年 (10年後)	2058年 (40年後)
必要な教室数	普	12	9	7
	特	2	1	2
空き教室数	普	4	7	9
	特	0	1	0
	計	4	8	9

地域拠点ルームにおいては、
災害時には避難所としての活用も可能

裏門横に駐車場を増やす

EV設置が前提となるが、
地域拠点ルームを4Fに集約する。

外から入れるよう
EV設置

EV